

「地域づくりは人づくり」

～地域の子どもたちは地域で育つ～

長峰校区青少年育成会 会長 堤 廣之



桜の花も満開の季節を迎え、平成27年度がスタートしました。地域の皆様には、日頃より青少年健全育成会の活動に、多大なご支援をいただき心より感謝申し上げます。

平成26年度も、子ほめ運動、通学合宿、遊び名人大会等々様々な活動を、皆様のご協力のもとに実施できましたことを重ねてお礼申し上げます。

さて、先日平成27年度長峰小学校入学式に参加させていただきました。一年生のしぐさひとつひとつが参観者の微笑を誘い、いつの時代も子どもは宝物だと改めて感じる事ができました。と同時に、この子どもたちが一人の社会人として、ふるさとの人や文化を大切に育む人として、たくましく成長してくれる事を願うのは参列者全員の願いではないでしょうか。

現在、全国的に地域の創世が叫ばれ、地域づくり・街づくりの様々な取り組みが展開されています。私は、そのような地域づくりに大切なことは、地域の中で「変化してよいもの・変化しなければならないもの」「変化してはならないもの」を見極める事だと考えています。

現代社会は、車社会の到来以降、道路が整備され交通手段が飛躍的に発達していきました。それに伴い、生活エリアが広がることで地域に「家族の分散化」を招き、地域や村の構造が大きく変わりました。と同時に、子どもたちの多くの問題行動を新聞等で目にします。文部科学省の報告では、現代の子どもの課題として、「迷惑をかけないという気持ち」「正義感」また「自制心」や「規範意識」等々の低下を挙げ、これら問題の一因は「大人の問題」でもあるとして、『「他人の事を思いやらず、自分さえよければと言った言動」や「責任感の欠如した言動」、「真摯に努力する事を軽視すると言った言動」は、今の大人が行っ

ているものである。』と述べています。

かつては、生活の基礎となる衣食住の産業が生活のエリア内にあり、地域が一つとして稼働していました。「みんなが幸せにありたい」と神社があり、そこを中心として「助け合い・補い合いの構図」を創ってきました。そこには、異なる家族・人とのふれあいがあり、地域で子育てをし、地域で老人介護をし、時として「生き方」も摺り合わせる場がありました。

しかし、今の生活スタイルを昔に戻すことは不可能ですし、利点は利点として生かすべきです。ならば「変化してはならないもの」は何かをしっかりと確認し、共有していく必要があります。・・・

「変化してはならないもの」それは、「人の幸せを願う心」・「他人への心遣い」です。

東京オリンピックの招致で有名になった言葉「お・も・て・な・し」。これは日本人が大切にしてきた「他人への心遣い」であるし、日本文化が世界に認められる「人の幸せを願う心」です。この心は、とりもなおさず、私たちが生まれ育った村や集落の中で長い間育まれてきたものなのです。

2020年東京オリンピックを控え3000万人の訪日観光客が期待されています。「観光」語源は『五経(易経)』の、「観国之光, 利用賓于王(国の光を観る。用て王に賓たるに利し)」とされています。つまり、「国の光りを観る」の光りとは、その地域のひと・もの・ことであり、特に、その人たちの心や心遣いであると思います。

人を思いやる事を大切にされる地域で育った子どもは、人を大切にし、人の幸せを願う地域づくりをめざすでしょう。ここで生まれてよかった。ここに暮らしたいという思いが「ふるさとを誇りに思う子ども」たちなのです。言い換えれば「地域づくりは人づくり」であり、地域の子どもは地域(の人)で育つと考えます。

長峰に住む私たち一人ひとりが、評論家ではなく実践者・実行者として、光り輝く「ふるさと長峰」を創って行きましょう。